

三菱電機グループ CSRレポート 2017

ハイライト



目次

目指すべき企業の姿	2
三菱電機の事業分野と社会課題への対応	3
グローバルな事業展開／会社概要／業績	5
社長メッセージ	7
CSRマネジメント	9
ステークホルダーコミュニケーション	11
CSRの重要課題	13
持続可能な社会の実現	13
安心・安全・快適性の提供	15
人権の尊重と多様な人材の活躍	17
コーポレート・ガバナンス、コンプライアンスの継続的強化	19
CSRの重要課題と取組項目	21
社会貢献活動	23
掲載情報一覧	26

編集方針

本「CSRレポート ハイライト」は、持続可能な社会の実現に向けた三菱電機グループのCSRの取組について、ステークホルダーの皆様とのコミュニケーションを目的に作成しました。三菱電機グループのCSRの全体像をお伝えするとともに、主に2015年度に特定した三菱電機グループのCSRの4つの重要課題に沿って、その基本的な考え方と取組事例を紹介しています。三菱電機グループは、社会への説明責任を果たし、ステークホルダーの皆様とのコミュニケーションの輪を広げていきたいと考えています。忌憚のないご意見を頂ければ幸いです。

● 報告対象期間

2016年4月1日～2017年3月31日(次回発行予定2018年9月)
※2017年度以降の方針や目標・計画などについても一部記載しています。

● 報告媒体について

非財務情報は「CSRの取組」ウェブサイトと「CSRレポート」にて報告している他、ダイジェスト版として「CSRレポート ハイライト」を発行しています。環境情報は「環境への取組」ウェブサイトにて報告をしています。

CSRの取組

<http://www.MitsubishiElectric.co.jp/corporate/csr/index.html>



ウェブサイト



CSRレポート



CSRレポート ハイライト

環境への取組

<http://www.MitsubishiElectric.co.jp/corporate/environment/index.html>



ウェブサイト

※各媒体の掲載情報についての詳細はP.26をご覧ください。

目指すべき企業の姿

三菱電機グループは、「企業理念」及び「7つの行動指針」に基づき、CSR(Corporate Social Responsibility)を企業経営の基本と位置付け、社会課題に対する解決への取組を通じて価値を評価される企業、すなわち、事業活動を通じて「社会」「顧客」「株主」「従業員」をはじめとするステークホルダーから信頼と満足を得られる企業を目指しています。

三菱電機グループの経営方針は、2001年度から実践してきた「成長性」「収益性・効率性」「健全性」の3つの視点による「バランス経営」を継続して、強固な経営基盤の確立と持続的成長を追求することです。この経営方針に基づき、環境問題や資源・エネルギー問題をはじめとする今日的な社会課題に対して、製品・システム・サービスの提供等によりグローバルに解決に取り組み、持続可能性と安心・安全・快適性が両立する豊かな社会の実現に貢献する「グローバル環境先進企業」を目指すことを通じて、グループ全体で持続的成長を追求し、企業価値の更なる向上に努めてまいります。

企業理念

三菱電機グループは、技術、サービス、創造力の向上を図り、
活力とゆとりある社会の実現に貢献する。

今日的な社会課題

環境問題

資源・エネルギー問題

三菱電機グループの取組み

製品・システム・サービスのグローバル展開

強い事業をより強く

技術シナジー・事業シナジー

「持続可能な社会」の実現

「安心・安全・快適性」の提供

目指すべき姿

2020年度までに達成すべき成長目標
連結売上高 5兆円以上
営業利益率 8%以上

豊かな社会の実現に貢献する
「グローバル環境先進企業」

三菱電機の事業分野と社会課題への対応

三菱電機の事業分野

ビル



世界最高品質の昇降機を追求し、ビルの安全・安心を守る。

80年以上の歴史を持ち、これまで約90カ国に昇降機を送り出してきました。国内では3台に1台は三菱電機の昇降機と言われています。またビルマネジメントシステム事業では、入退室管理などのビルセキュリティシステムや、ビルの設備を管理・制御するビル管理システムなどにより、安全・安心に加え、省エネにも貢献しています。

主な製品

- エレベーター
- エスカレーター
- ビル管理システム
- ビルセキュリティシステム

公共



もっと良い未来のために、確かな生活基盤を最先端の技術で。

高度な社会インフラに貢献するライフラインや公共施設・サービスなど、生活基盤を築く数々の分野で事業を展開しています。水環境システムや先端医療を始め、安心・安全な社会づくりへの貢献、そして映像エンターテインメントの提供まで、社会が必要とするものをつくり出し、暮らしの質を高めていきます。

主な製品

- 水処理技術
- 航空管制システム
- 粒子線治療装置
- 大型映像装置
- 防災情報システム

交通



車両用機器・システムをトータルで提供する「鉄道の三菱電機」。

1964年の開通以来、すべての新幹線において車両・地上システムの開発に携わってきた技術力。そして、様々な分野で培ってきた電力や通信などの技術を集結し、省エネにも貢献しています。既に世界30カ国以上で三菱電機の製品が採用されています。これからも省エネで安全、快適な国内外の鉄道を支えていきます。

主な製品

- 車両用主回路システム
- 車両用空調装置
- 車両情報管理装置
- 電力管理システム
- トレインビジョン
- 列車運行管理システム

産業・FA



リーディング企業として日本の、世界の「ものづくり」を支える。

シーケンサーやレーザー加工機などのFA分野で世界トップクラスのメーカーとして各国の「ものづくり」を支えています。また、FA技術とIT技術を活用し、開発・生産・保守の全般にわたるトータルコストを削減し、一歩先のものづくりを支援するソリューション[e-Factory]も展開しています。

主な製品

- シーケンサー
- レーザー加工機
- サーボ
- 産業用ロボット
- 省エネ支援システム
- 配線用遮断器

エネルギー



川上から川下まで、国内屈指の総合力で電力インフラを構築。

創業以来携わってきた伝統あるビジネスであり、発電から送変電、配電に至るすべてのフェーズにおいて、世界各国の電力インフラの発展に大きな役割を果たしてきました。クリーンエネルギーの需要が高まる中、スマートグリッド関連事業など、新たなエネルギービジネスも積極的に展開しています。

主な製品

- タービン発電機
- 保護、制御システム
- 真空遮断器
- 変圧器
- 受変電システム
- 系統安定化システム
- 開閉装置
- 太陽光発電システム

自動車機器



多彩な製品群で、モータリゼーションの発展を下支えする。

世界で初めて製品化した電動パワーステアリングを始めとして、世界トップクラスのシェアを誇る数多くの製品で安全・安心・快適なクルマ作りを支えています。電気自動車やハイブリッド車の普及、自動運転の実現など、変わり続ける時代のニーズを様々な視点からとらえ、誰もが安全に安心して利用できるクルマ作りにも貢献していきます。

主な製品

- エンジン電装品
- 電動パワーステアリングシステム
- エンジン制御製品
- カーマルチメディア製品
- 電動化関連製品
- 予防安全製品

三菱電機の事業とSDGs

三菱電機グループは、身近な家電製品から国家規模のプロジェクトや人工衛星まで、技術・製品・サービスを多岐にわたって展開している総合電機メーカーとして、持続可能な開発目標（SDGs）の達成に対しても貢献できると考えています。ここに挙げた8つの目標は、三菱電機

3 すべての人に健康と福祉を

健康的な生活の確保と福祉の推進

交通事故の削減に貢献する安全運転支援システムや、医療の高度化に資する先端医療システムなどを通じて、健康と福祉の向上へ貢献します。

6 安全な水とトイレを世界中に

水と衛生の利用可能性と持続可能な管理の確保

水処理・水の浄化に関する技術を有しており、安全な水を供給するための技術やシステムを提供しています。

7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに

持続可能なエネルギーの確保と利用拡大

省エネ・創エネやスマート社会の実現に貢献する技術やシステムの開発を進めるとともに、これらの技術・製品・サービスの普及に取り組んでいます。

9 産業と技術革新の基盤をつくろう

持続可能な産業化の促進、技術革新の拡大

FA事業によって「ものづくり」を支えるとともに、技術革新により産業分野の発展へ貢献しています。

宇宙



宇宙という広大なビジネスフィールドで先端技術が活きる。

これまでに世界各国で500機以上の人工衛星開発に参加しています。宇宙環境を再現できる試験設備を備え、人工衛星の設計・製造・試験を一貫して自社内で行うことができます。また、ハワイの「すばる望遠鏡」やチリの「ALMA望遠鏡」など、大型望遠鏡の分野でも世界をリードしています。

主な製品 ■人工衛星 ■大型望遠鏡 ■人工衛星搭載機器

通信



情報を「送る」技術で、快適なコミュニケーションを実現。

インターネットなどの通信インフラ上で、高画質動画コンテンツなど大容量データを高速でやりとりするために、光ブロードバンドサービスに対応した製品を手がけています。また、安心・安全な社会の実現に貢献する映像セキュリティシステムや、エネルギーの最適利用に向けたスマートグリッド用通信システムなど、多彩な製品を通じて豊かな社会づくりを支えます。

主な製品 ■光ブロードバンドシステム ■無線アクセスシステム ■ホームICTシステム ■映像セキュリティシステム ■列車無線システム

半導体・電子デバイス



より豊かな社会を支えるキーデバイスを提供。最先端技術に挑戦。

家電から宇宙まで、機器のキーデバイスとして活躍し、我々の暮らしを豊かにする半導体・デバイスを提供しています。特にパワー半導体は家電製品や産業機器、鉄道などの電力制御やモーター制御、風力発電や太陽光発電などあらゆる分野で活躍。その性能によって各分野で高い省エネ効果を生み出しています。

主な製品 ■パワーモジュール ■光デバイス ■高周波デバイス ■TFT液晶モジュール

空調・冷熱



暮らしや産業のあらゆるシーンで快適性・省エネ性を求めています。

ルームエアコン「霧ヶ峰」に代表される住宅用から、ビル用、産業用まで幅広く省エネ効率の高い空調機を提供しています。一方で冷凍・冷蔵などの低温分野においても、低温倉庫・食品加工場やアイススケートリンクの製氷用冷凍機など、流通から産業分野まで幅広い低温システムを提供しています。

主な製品 ■ルームエアコン ■業務用空調機 ■低温・給湯・産業冷熱

ホームエレクトロニクス



お客様の快適な生活の実現のために。

キッチン・リビング・寝室等、幅広い生活シーンでお使いいただける家庭電器商品を提供しています。それぞれのシーンでお客様の期待にこたえ、更に期待を超える商品を提供することでお客様の快適な生活を実現してまいります。

主な製品 ■液晶テレビ ■冷蔵庫 ■掃除機 ■ジャー炊飯器

ITソリューション



暮らしのあらゆる場面に、ITで快適・安心・発展を提供。

金融機関や製造現場、社会インフラ（交通・航空・空港・電力）、デベロッパーなど幅広い分野において、暗号化を始めとするセキュリティ技術やIoT技術、及びクラウド基盤の活用により、豊かな暮らしと社会を支えるITソリューションを提供しています。

主な製品 ■ターミナルレーダー情報処理システム ■空港旅客案内情報システム ■エネルギーマネジメントシステム ■大規模セキュリティシステム

グループが製品・サービスを通じて特に貢献できる分野です。

世界共通の目標達成に向けて、引き続きマネジメントを強化するとともに、社内浸透を図り、SDGsの考え方を経営に統合していきます。

11 住み続けられるまちづくりを



安全で持続可能なまちづくりの実現

防災事業やインフラ事業などを通じて、人々の暮らしに安全・安心・快適性を提供しています。

12 つくる責任 つかう責任



持続可能な生産消費形態の確保

製造時の資源投入量の削減、使用済み製品のリサイクルに取り組みほか、廃棄物最終処分量の低減、グリーン調達を推進しています。

13 気候変動に具体的な対策を



気候変動及びその影響の軽減

CO₂を含む温室効果ガスの排出量をバリューチェーン全体で把握し、目標を立てて削減を図っています。

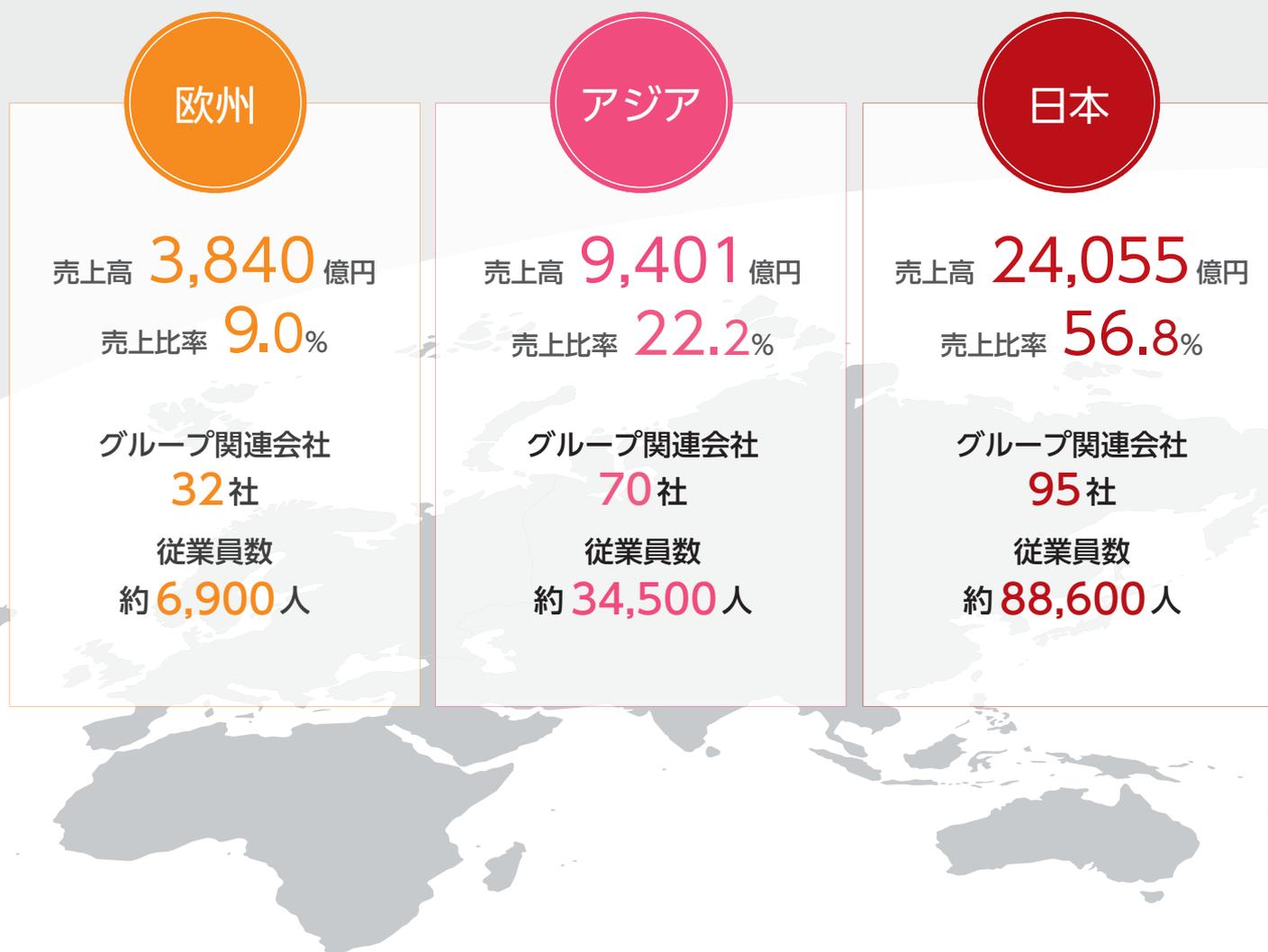
15 陸の豊かさも守ろう



生態系の保護・回復、生物多様性の損失防止

海洋や森林の状況を伝える観測衛星を開発・提供しているほか、三菱電機の各事業所で、周辺環境との共生を図る取組も進めています。

グローバルな事業展開



会社概要 (2017年3月末現在)

社名：	三菱電機株式会社
本社：	〒100-8310 東京都千代田区丸の内 2-7-3 東京ビル
代表者：	柵山 正樹
電話：	03-3218-2111 (代表)
設立：	1921年1月15日
資本金：	175,820百万円
発行済株式数：	2,147,201,551株
連結売上高：	4,238,666百万円
連結総資産：	4,180,024百万円
連結従業員数：	138,700人

北米

売上高 **4,222** 億円
 売上比率 **10.0%**

グループ関連会社
12社
 従業員数
 約 **5,800**人

その他^{※1}

売上高 **866** 億円
 売上比率 **2.0%**

グループ関連会社
4社
 従業員数
 約 **2,900**人

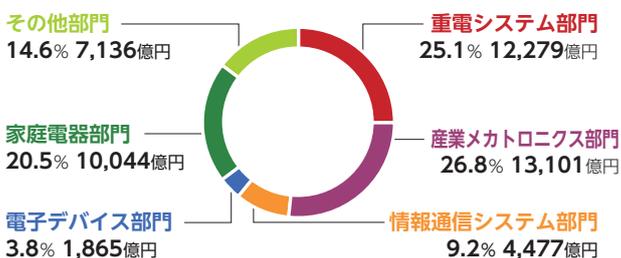
※1 オセアニア、中南米、アフリカ

業績

	第145期 (2015年度)	第146期 (2016年度)
売上高	4兆3,943億円	4兆2,386 億円 (前年度比 96%)
営業利益	3,011億円	2,701 億円 (前年度比 90%)

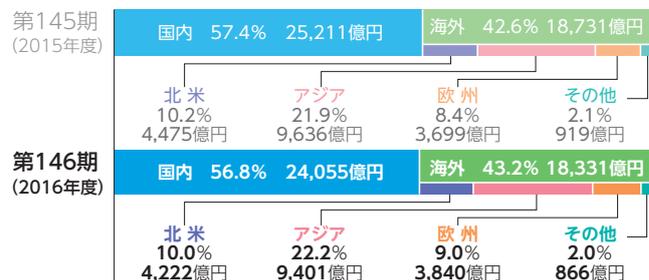
	第145期 (2015年度)	第146期 (2016年度)
税金等調整前 当期純利益	3,184億円	2,962 億円 (前年度比 93%)
当社株主に 帰属する 当期純利益	2,284億円	2,104 億円 (前年度比 92%)

部門別売上高



(注) 部門別売上高には、部門間の内部売上高(振替高)を含めて表示しております。

向先地域別売上高



(注) 向先地域別売上高は、顧客の所在地別に表示しております。

社長メッセージ

「グローバル環境先進企業」を目指して グループ一丸となって、豊かな社会の実現に貢献します。

社会から必要とされる企業となるために

長く繁栄する企業とは、社会から必要とされる企業です。社会から認められ必要とされ続けるためには、財務面だけではなく、CSRの面も非常に重要です。

三菱電機グループは、創業100周年を迎える2020年度までに達成すべき目標として、「連結売上高5兆円、営業利益率8%以上」を掲げています。こうした財務数値を企業の「身長・体重」に例えるとすれば、CSRは「人格」に当たります。もう一段高いレベルでの成長を実現するためには、「身長・体重」と「人格」をしっかりと伸ばしていくことが必要です。

私たちのすべての企業活動の基本には、「三菱電機グループは、技術、サービス、創造力の向上を図り、活力とゆとりある社会の実現に貢献する」という企業理念があります。この企業理念をより具体的に実践していくために、CSRの4つの重要課題を定め、2016年度より活動を本格化させています。

CSR重要課題の取組の進捗

重要課題の1つ目は「持続可能な社会の実現」、2つ目は「安心・安全・快適性の提供」です。これらを両立させ、豊かな社会の実現に貢献する「グローバル環境先進企業」を目指し、今日的な社会課題である環境問題、資源・エネルギー問題の解決に、製品・システム・サービスのグローバル展開を通じて、寄与しています。2016年度には、環境への取組を国際NGOであるCDPから高く評価され、「気候変動」「水資源」「サプライチェーン」の3分野で最高評価である「Aリスト企業」に選定されました。これは単に環境負荷を低減するだけではなく、取組を通じて人々の暮らしをより安心・安全・快適にするという点も評価されたものと考えています。こうした評価に恥じぬよう、創立100周年である2021年を目標年とする「環境ビジョン2021」の達成に向けてしっかりと取り組んでいきます。

3つ目は「人権の尊重と多様な人材の活躍」です。三菱電機グループは常に人権を尊重した行動をとり、国籍、人種、宗教、性別等いかなる差別も行いません。また、女性活躍、グローバルな人材育成、高齢者の多様な働き方の支援、障がい者雇用の推進等により多様な人材が力を発揮できるよう取り組んでいます。非常に残念なことですが、過去に長時間労働に起因する労働災害を起しました。このような事態を再び起こさないよう、全社をあげて総労働時間の削減と適切な労働時間管理に取り組み、従業員が仕事と生活のバランスをとりながら心身の健康を維持し、生き活きと働ける職場を実現すべく「働き方改革」を進めています。

4つ目は「コーポレート・ガバナンス、コンプライアンスの継続的強化」です。コーポレート・ガバナンスについては、更なる経営の監

督機能の向上のため、社外取締役への情報提供と意見交換の場の設置や、取締役会レビューの継続的な実施により、取締役会の更なる実効性向上を図っています。加えて2016年度から1名の女性社外取締役を迎え、より多様な視点を経営に取り入れるなど、「健全なチェック機能が働く企業経営」を目指しています。コンプライアンスの取組は会社が存続するための基本であり、継続的な対応が必要です。我々が目指すのは社会に貢献することであり、売上や利益は結果として付いてくるものです。目的を見誤らず、「自分たちは何のために事業をしているのか」従業員一人ひとりがしっかりと意識して行動することが重要です。

社会課題の解決に貢献するイノベーション

2015年に国連総会で採択された「持続可能な開発目標」(SDGs[※])など、国際的な動きにもグローバル企業として感度を高めていかなければなりません。三菱電機グループがSDGsの17の目標の達成にいかに関与しているか検討を始めています。

企業が事業を通じて社会課題の解決に貢献するためには経済合理性も不可欠であり、そのためにはイノベーションが必要です。大切なことは三菱電機らしいイノベーションにより、社会課題の解決にインパクトを与えることです。例えば、再生可能エネルギー(再エネ)で発電した直流電力は、従来、送電時の電圧変更が容易な交流電力に変換し、供給されています。しかしながら、直流電力を必要とする機器(例:データセンター等)に供給する場合には、再度、直流へ変換する必要があり、変換時の電力ロスが発生します。これに対して受配電システム製作所では、発電された直流電力を交流電力に変換せずに供給する仕組みの事業化を目指して、研究を重ねています。これが実用化すれば再エネをフル活用することができ、再エネ・省エネ分野に大きなインパクトを生むことができると考えています。

国内トップクラスの特許資産規模を誇り、その多領域にわたる知的財産権は三菱電機グループの強みとなっています。事業間のシナジーを発揮して、それらを的確に組み合わせることで画期的なイノベーションが生まれ、新たな価値創出につながれると考えます。

各研究所でも、研究所間の連携強化に向けて動き出しています。研究開発の軸となるのが、社会から求められる課題解決のキーワード「IoT」「スマートモビリティ」「快適空間」「安全・安心インフラ」です。これまでの各研究所の特定の部署が担当してきた体制を改め、この4つのテーマで研究全体に横串を通していきます。

デザイン研究所の「未来イノベーションセンター」が主導する「Small World Project」も、未来社会への貢献の好事例だといえるでしょう。このプロジェクトは、普段はそれぞれ違う事業分野に携

※SDGs(Sustainable Development Goals=持続可能な開発目標)は、2015年に国連総会で採択された、2030年に向けた人、地球及び繁栄のための行動計画。

わるデザイナーが集まり、途上国の人々の暮らしをサポートする取組です。例えば、インドネシアでは魚の移動販売で生計を立てる人々の所得の向上を目的に、食材を新鮮なまま流通させるバイク用の冷蔵庫のアイデアが実用化を目指す段階に入っています。このように、社会に潜在化するニーズを読み解き、未来志向での研究開発を続けていきます。

「Changes for the Better」 ～変革に挑戦し続け、次の地平を拓く～

昨今では、三菱電機グループを取り巻くステークホルダーの皆様にも変化が見られ、「身長・体重」という財務面以外にも、企業の「人格」への関心が高まっていることを実感しています。「三菱電機グループは社会に必要な会社」と認識していただくためには、企業理念に加え、「人格」を理解いただくことも重要であり、これまでも増して、ステークホルダーの皆様とのコミュニケーションを積極的に行っていきたいと考えています。

2016年2月には、東京2020オリンピック・パラリンピックのスポンサーシッププログラムの契約を締結しました。エレベーター・エスカレーター・ムービングウォークカテゴリーのオフィシャルパートナーとして、大会関連施設と周辺インフラのバリアフリー化に貢献します。また、車いすバスケットボールをはじめとする障がい者スポーツなど様々なスポーツを通じて、共生社会の理解を深めるプロジェクト「三菱電機Going Upキャンペーン」をスタートするなど、よりよい社会を目指す活動も行っています。

私たちが常に目指すのは企業理念にある「活力とゆとりある社会の実現」への貢献です。約14万人のグループ従業員一人ひとりが企業理念の実践を目指すことは極めて重要です。自社グループへの理解とビジョンの共有を促すため、2016年度には従業員向けの映像教材を製作しました。グローバルの従業員が理解できるよう、日本語、英語、中国語、スペイン語、タイ語など多言語対応とし、国内外のグループ各社へ展開を始めています。私は「変革に挑戦し続け、次の地平を拓く」をモットーにしています。社会のニーズは時代とともに変わっていきますが、従業員一人ひとりが「活力とゆとりある社会の実現」のために何ができるか、何をすべきか意識して挑戦し続けることで、社会から信頼され続けることができます。それは2020年もその先の未来も変わるものではありません。これからも、コーポレートステートメントの「Changes for the Better」の精神にのっとり、「グローバル環境先進企業」を目指し、グループ一丸となって、豊かな社会の実現に貢献します。

執行役社長

柵山正樹



CSRマネジメント

CSRに対する考え方

三菱電機グループでは、CSRの取組を企業経営の基本を成すものと位置付け、「企業理念」及び「7つの行動指針」をCSRの基本方針として推進しています。特に倫理・遵法に関する取組については、教育の充実や内部統制の強化など、グループを挙げて対策を徹底しており、品質の確保・向上、環境保全活動、社会貢献活動、ステークホルダーの皆様とのコミュニケーションなどについても、

理念

企業理念

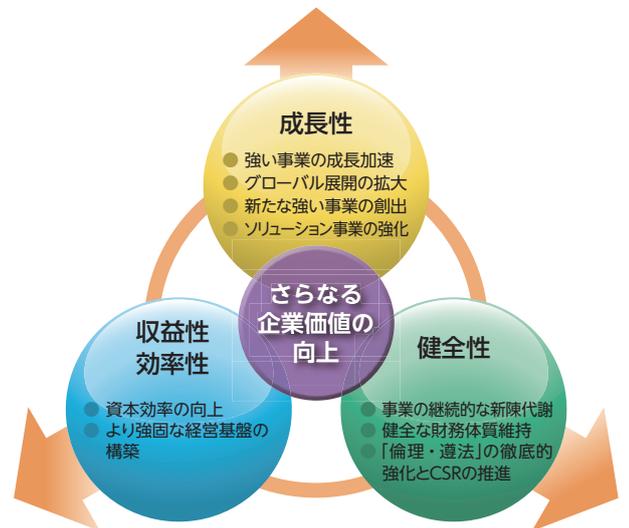
三菱電機グループは、技術、サービス、創造力の向上を図り、活力とゆとりある社会の実現に貢献する。

7つの行動指針

1. **信頼** 社会・顧客・株主・社員・取引先等との高い信頼関係を確立する。
2. **品質** 最良の製品・サービス、最高の品質の提供を目指す。
3. **技術** 研究開発・技術革新を推進し、新しいマーケットを開拓する。
4. **貢献** グローバル企業として、地域、社会の発展に貢献する。
5. **遵法** 全ての企業行動において規範を遵守する。
6. **環境** 自然を尊び、環境の保全と向上に努める。
7. **発展** 適正な利益を確保し、企業発展の基盤を構築する。

経営方針

バランス経営の継続と
持続的成長のさらなる追求



変革への挑戦

変革に挑戦し続け、次の地平を拓く。

4つの満足

社会への貢献

社会の満足

企業価値の向上

株主の満足

よい製品・サービスの提供

顧客の満足

働きがいのある職場づくり

従業員の満足

捉えている社会課題

今日的な社会課題

環境問題

資源・エネルギー問題

積極的な取組を展開しています。

経営計画に基づいた企業活動を行い、CSRの重要課題と目標／取組指標（KPI）についてPDCA（Plan-Do-Check-Action）サイクルによる継続的な改善活動を実施し、豊かな社会の実現に貢献します。

企業活動

事業を通じた取組



重電システム

産業メカトロニクス



情報通信システム



電子デバイス



家電製品

事業を支える取組



環境

社会

ガバナンス



CSRの重要課題

三菱電機グループは、「企業理念」及び「7つの行動指針」をCSRの基本方針とし、豊かな社会の実現に貢献する「グローバル環境先進企業」を目指し、4つの重要課題に対する取組をサプライチェーンと共に推進します。



持続可能な社会の実現



安心・安全・快適性の提供



人権の尊重と
多様な人材の活躍



コーポレート・ガバナンス、
コンプライアンスの
継続的強化

目標
取組指標
(KPI)

豊かな社会の
実現に貢献

SDGs
17の目標と169のターゲット
SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS
世界を変えるための17の目標



ステークホルダーコミュニケーション

三菱電機グループが持続的に成長していくためには、様々なステークホルダーとコミュニケーションを取ることが必要です。各ステークホルダーからの期待や要請・ご意見を企業活動に反映させ、社会に対してマイナスの影響を減らし、プラスの影響を増やしていくことが、三菱電機グループにとってのCSRです。経営方針として「4つの満足」を掲げており、社会・顧客・株主・従業員などすべてのステークホルダーに満足いただけるよう、しっかりと取り組みます。

4つの満足



CSR推進のための社内施策



CSR委員会

経営層での取組

三菱電機グループのCSRの取組は、三菱電機の執行役員会議から委嘱を受けたCSR委員会で活動の取りまとめを行っています。CSR委員会は原則として年に1回開催しており、前年度の活動実績の把握や今後の活動計画の決定、法改正への対応など、三菱電機グループ横断的な視点から議論を行っています。

CSR専門部会

コーポレート部門で議論を重ねる

CSRに特に関連の高い19部門の担当者が集まり、定期的に会議を開催しています。三菱電機グループのCSRの重要課題や今後の取組の活性化、法規制やCSRの国際規格への対応について、情報共有して理解を深めるとともに、コミュニケーション・合意を図りながら議論を重ねています。



CSR事業推進部会

事業を通じた社会への貢献の推進

すべての事業本部の担当者が集まり、定期的に会議を開催しています。「事業を通じた社会への貢献」を主題として、三菱電機グループのCSRについての情報共有や解決すべき社会課題について議論しています。





ステークホルダーとの対話

対話を通じて社会からの期待・要請を捉える

事業活動を行う上で、ステークホルダーとの強い信頼関係は必要不可欠です。ステークホルダーに三菱電機グループをご理解いただくとともに、期待や要請・ご意見を伺う多様な機会を設けています。

株主

決算説明会(年4回)、株主総会(年1回)、IRイベント/個別ミーティング、ウェブサイト(IR資料室)、取材対応、株主通信

地域社会

本業での貢献、社会貢献活動(基金、海外財団、ボランティア活動)、大学への助成、工場見学、工場開放イベント

取引先

コスト共創活動、CSR調達説明会、BCPセミナー、公正な取引先選定評価結果による打合せ



顧客

問い合わせ窓口、営業活動、ウェブサイト、ショールーム、イベント、展示会、お客様アンケート、メディア・CM

従業員

ホットライン、イントラネット、社内報、各種研修、経営層と従業員のミーティング、従業員意識調査

行政(政府・自治体・業界団体)

各種審議会・委員会への参画、業界団体・経済団体の活動への参画

NGO・NPO

社会貢献活動(基金、財団、ボランティア活動)

CASE ダイアログ 経営トップが自ら専門家と対話

年1回、各界でご活躍され深い知見をお持ちの有識者の方々に、三菱電機グループのCSRの取組について、CSRの最新の潮流を踏まえてご意見を頂く場を設けています。

【対話のテーマ】

- 三菱電機グループのCSRの重要課題
- 三菱電機グループに期待すること

【頂いた主なご意見】

以下の観点から、三菱電機グループのCSRの取組について期待・ご意見を頂きました。

- 持続可能な開発目標(SDGs)への貢献
- 人権に関する世界動向の把握
- グローバル企業としてのグループでの取組
- サプライチェーンマネジメントの推進

【ステークホルダーの声を受けて】

「グローバル環境先進企業」を目指す企業として、日本国内の常識に捉われず、世界に向けた広い視野を持つ重要性を改めて確認しました。

【ご参加いただいた有識者】

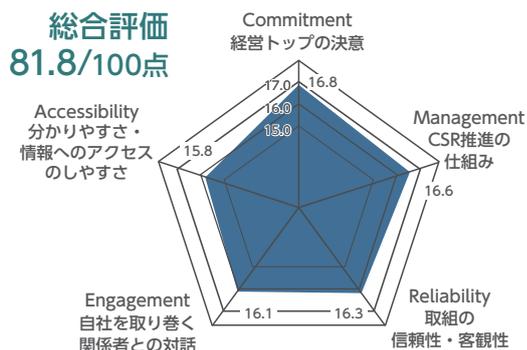
有馬利男氏(国連グローバル・コンパクトボードメンバー、グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン代表理事)、河口真理子氏((株)大和総研 主席研究員、日本サステナブル投資フォーラム共同代表理事)、富田秀実氏(ロイド レジスタージャパン(株) 取締役 事業開発部門長)



CASE 読者アンケート アンケートで声を集める

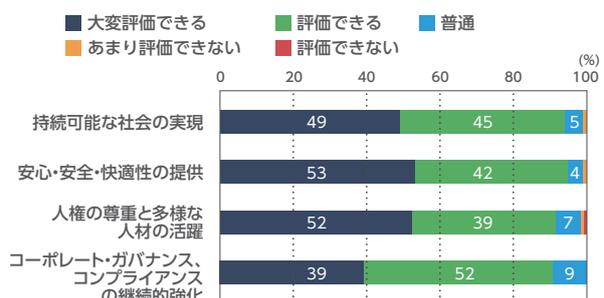
三菱電機グループのCSRの取組及び「CSRレポート2016」に対して、国内外のステークホルダーの皆様を対象に、アンケート調査を行い、計815名(日本600名、海外215名)の方からご回答いただきました。全体的に高く評価いただき、肯定的な意見を多く頂きましたが、ご指摘いただいた点、気づいた課題を真摯に受け止め、今後の活動へと反映し、グループ全体でCSRをさらに推進したいと考えています。

日本国内アンケートの結果



海外アンケートの結果

● CSRの重要課題(マテリアリティ)の評価

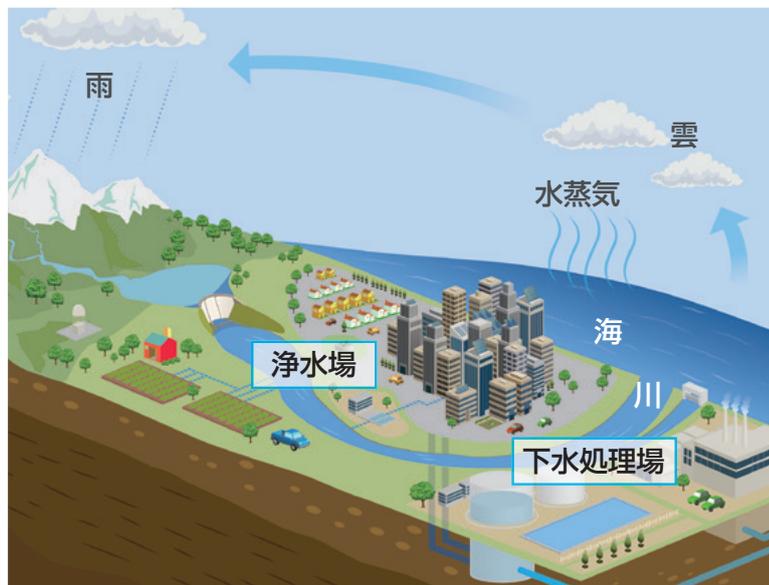


持続可能な社会の実現

持続可能な水循環社会に貢献

私たちの生活にとって必要不可欠である水。川や海で生じた水蒸気が雲、そして雨となって地上に降り注いだ後、川となって山から海へと流れ込み、再び蒸発して雲となる。この健全なサイクルなくして、社会は持続しえません。

世界では、急速な人口の増加や都市の拡大・過密化等により、水需要は急速に高まっています。三菱電機グループは、この持続可能な水の循環に、多面的に寄与しています。監視制御システムによる浄水場・下水処理場プラントの効率的・安定的な運転、オゾン技術を中心とした水処理システムによる安全な飲み水の提供や、下水・工業排水の処理を通じた環境汚染の防止。今後も、レジリエントなインフラの整備と同時に、持続可能な水循環社会に貢献していきます。



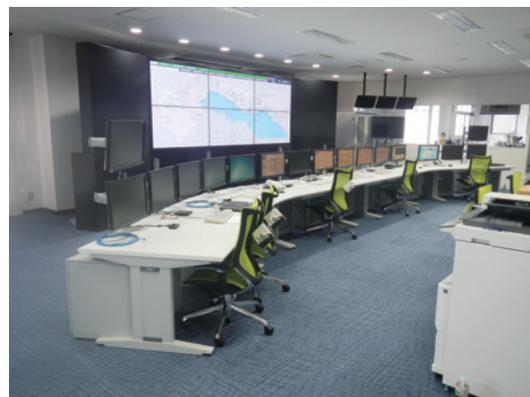
監視制御システム

水管理の頭脳として、都市の水をコントロール

水の効率的・安定的な管理なしに、都市の水環境を支えることはできません。三菱電機の監視制御システムは、日本全国の浄水場、下水処理場などに導入されています（2016年時点で全国約1,000の浄水場、下水処理場にて稼働）。

本システムは、安全でおいしい水の安定供給や最適分配、汚水の浄化・雨水処理などの面で、効率的かつ経済的な運用に貢献し、人々の快適な暮らしを支えています。

日本において60年近く監視制御システムのコア技術を培ってきた三菱電機は、広域水運用、情報共有、遠隔地からの操作、集中豪雨等への早期対応、そしてIoT活用システムなどのサービスを拡大しています。さらに、海外展開も加速させていきます。今後は、世界の都市のレジリエントでサステナブルなインフラ構築に寄与していきます。



オペレータ室

CASE 福岡市水道局

福岡市水道局の配水コントロールシステム

福岡市では、1978年に発生した渇水の経験から、“水”が地域の最重要課題として位置づけられ、高い水準の水管理システムが必要とされていました。1981年のシステム導入の際、三菱電機の制御システムを採用。本システムにより、複数の浄水場をつなぎ、互いにニーズに応じて水道水を融通し合える仕組みを構築しました。この制御技術は、世界的にも珍しく、当時の三菱電機の最先端の技術を結集させ、1981年に完成させました。

2013年には3代目のシステムへリニューアル。技術は着実に発展向上し、オペレーターの負担軽減のための支援システム、データをもとに推定した配水量の予測値や、様々な監視データを追加していくことで、多角的な情報を同時に「見える化」する機能を付与するなど、センターとしての即応体制の強化を遂げられました。



「三菱オゾナイザ」を活用する鳥羽水族館マナティ水槽



オゾン発生装置「三菱オゾナイザ」

水処理システム：オゾナイザ

オゾンパワーで飲用水を安全においしく・下水や工業排水のリサイクルに貢献

日本では、高度経済成長期の1950年代、急速な人口成長や都市の拡大・過密化により水環境の悪化が問題となりました。当時の浄水技術では、消毒できない微生物が含まれていたり、臭いを除去できない、といった課題がありました。

即効性のある消毒剤となるほか脱臭効果もあるオゾン処理が次世代型の浄水技術として注目され、三菱電機は、安全な水供給に貢献するため、1960年代より、エレクトロニクス技術を活かしてオゾン発生装置「オゾナイザ」の製造、販売を行っています。

50年に及ぶ歴史の中で、装置の高効率化・コンパクト化を重ね、

2006年には平成18年度全国発明表彰「21世紀発明賞」、2007年には日本機械工業連合会優秀省エネルギー機器表彰「日本機械工業連合会会長賞」を受賞しています。

これまで「三菱オゾナイザ」は1,700台以上を納入、国内上下水道分野では市場の50%超（2016年4月現在、三菱電機調べ）を占めるトップシェアとなっています。上下水道分野に加えて、工場での排水処理や、水族館の水槽の浄化処理でも活用されるなど、三菱オゾナイザの活躍の場は広がっています。

世界展開

「三菱オゾナイザ」は日本にとどまらず、海外へも展開しています。北米、及びアジア地域において、都市部の上下水道の水処理施設を中心に、50件以上の導入実績があります。

今後も三菱電機は、これらの技術を通じ、世界の都市の水環境において、高効率で高品質な水のリサイクルと水供給を通じて、持続可能な水の循環社会を支えていきます。

CASE シンガポール

シンガポールの浄水場向けオゾンシステム

国土面積が小さく、保水力に乏しいシンガポールでは、水を持続的に確保することが最重要課題です。国を挙げて、すべての水を回収・再利用し、さらに海水も利用することで、水を確保しようとしています。そのシンガポールにおいて、三菱電機のオゾンシステムは、その技術の評価いただき、シンガポール公益事業庁(PUB)が管理する浄水場に2018年に導入を予定しています。

オゾンシステムの応用(EcoMBR®)

さらに、シンガポールでは、三菱オゾナイザの技術を応用したEcoMBR®の実証実験が始動しています。

従来型のMBR(Membrane BioReactor)は、下水や排水に含まれる有機物などを、微生物とろ過膜を使って除去する水処理装置ですが、これにオゾンを組み合わせたEcoMBR®では、より高効率に処理することが可能となりました。

VOICE シンガポールの営業担当者



Mitsubishi Electric Asia Pte.Ltd.
(シンガポール)

フィリップ タン

シンガポール公益事業庁(PUB)の浄水場へのオゾナイザ導入は、三菱電機のオゾン事業において、シンガポール市場、並びに東南アジア地区での初の試みとなりました。そのため、製品/技術の強みをお客様へご理解いただくのに大変苦労しました。監視制御システムについてはシンガポール国内での実績があったものの、オゾナイザの認知度はまだ低く、日本での豊富な経験と納入実績等をPRすることを工夫し、省エネやコンパクト化、メンテナンス性の向上等を中心にPRを強化し、採用に結び付けることができました。

新市場を開拓するということは、非常にチャレンジングです。今回のプロジェクトの中でお客様から信頼を頂き、今後もシンガポールの水事業に貢献したいと考えています。

安心・安全・快適性の提供

1分1秒を“見守る”技術で災害へ備える

社会にとっての重要課題、災害への備え。三菱電機グループは、ものをシステムでつなぎ、リアルタイムで高精度にモニタリングするテクノロジーを通じて、防災・減災に貢献します。

レーダーによる津波監視支援技術

レーダーによる津波監視で、沿岸地域の防災・減災の一翼を担う

近年、日本の沿岸部においては、大地震の発生による津波の来襲が懸念されています。効率的な避難や対応を行うには、津波が沿岸に到達する前に、可能な限り早く察知することが重要です。そこで、三菱電機では水平線の向こう側の見通せない遠いエリアからの海流観測により津波を監視可能な海洋レーダーを用いた津波監視技術を開発しました(図1)。

三菱電機の海洋レーダーは、2000年頃より、広い海洋での海流速を観測する目的に使われてきましたが、2011年3月の東日本大震災を機に、津波観測への応用研究を開始し、3年余の時を経て製品化となりました。

海洋レーダーは短波帯(3~30MHz)の電波を使用しており、監視距離が沿岸から30~200kmと長いことが特徴です。例えば、平均水深300メートルの海洋で沖合30km以上にある津波を発見できれば、津波到来の10~15分程前にその情報を得ることができます。

開発の一つの鍵は、津波をどう「見える化」するかということでした。地震で生じた津波による流速変化は、沖合の水深の深いところでは毎秒10センチ程度と非常に緩やかになるため、通常の海流や潮の満ち引きと区別がつきにくいという課題がありました。そこで、定常流の動きを予測して除去し、津波成分だけを抽出する「見える化」の技術を開発しました(図2)。

今後は津波の観測にとどまらず、津波の到来を予測する技術の実現/高度化を行い、更なる地域防災への貢献をしたいと考えています。



図1 送受信アンテナの設置イメージ

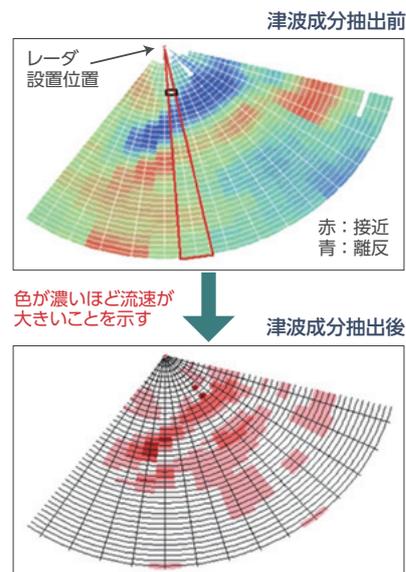


図2 見える化の仕組み

VOICE 津波監視技術開発者



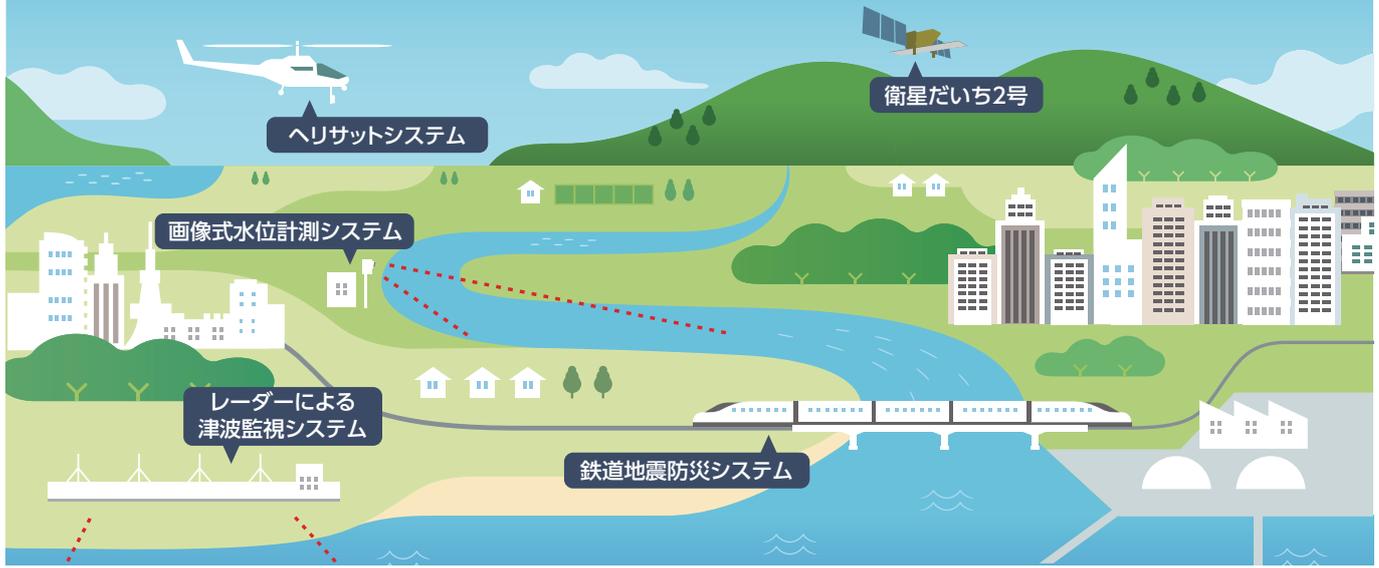
三菱電機株式会社 通信機製作所
電子情報システム部 システム第四課

小柳 智之

私は海洋レーダー研究の経験から、同装置の開発に携わり、運用を支援しています。

導入にあたっては、海辺に設置するという状況から、潮風の影響を受けないようにアンテナの高さを低くして機能する工夫や、津波監視装置という性格上、高い耐震性が求められ、それらを技術的にクリアするために様々な苦労がありました。また、機器を納入したから終わりではなく、より高精度にするためにも継続的な保守が不可欠です。

津波という人命を大きく左右する災害対策技術の一翼を担うにあたっては、三菱電機の高精度・高品質製品への厚い信頼・期待のもと成り立っていることを強く感じます。今後その信頼に応えるためにも、地道で継続的な努力を続け、防災対策に貢献したいと思います。



災害状況をリアルタイムで配信

ヘリサットシステム

三菱電機が世界で初めて開発したヘリコプター直接衛星通信システムは、現場にいるヘリコプターから、リアルタイムに空撮映像を伝送することが可能です。従来はヘリコプターの羽の部分（ブレード）が障害となり、ヘリコプターと衛星をつなぐことは不可能でした。しかし三菱電機はこのブレード回転に同期した間欠送信技術を開発。その結果、高層物の影響を受けずに安定したリアルタイム情報の伝送が可能になりました。

2013年より、中央省庁・自治体へ納品を開始しています。現在

は全国各地にて、火山噴火や地震などの災害発生時、被災地救済のための一翼を担っています。

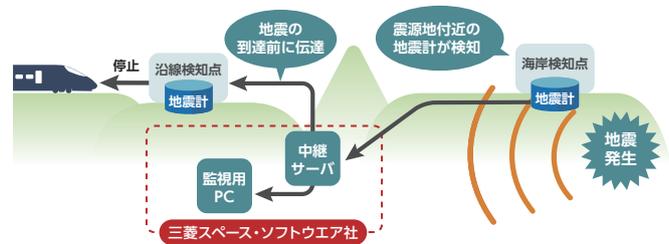


ヘリサットシステム

地震のときに鉄道の安全を確保

鉄道地震防災システム

地震が発生すると、震源地付近の地震計が検知し、その情報が中継サーバーへ伝わりますが、三菱スペース・ソフトウェア社では、地震データ解析技術を用いて、“鉄道の運転制御の判断支援”という重要な役目を果たしています。地震のP波（小さい地震）とS波（大きい地震）の伝播速度の違いを利用して、震源地や地震規模を即時に推定。大きな揺れが来る前に運転中の列車を停止、減速させるなどの制御を行うことで、地震による被害の拡大を最小限に食い止めます。



鉄道地震防災システムの仕組み

ゲリラ豪雨による街の浸水を早期に把握

画像式水位計測システム

近年、ゲリラ豪雨等、下水道では排出しきれないほどの雨量を伴った降雨による浸水被害が広がっています。街中での浸水被害は市民の生命や財産に多大な影響を及ぼす可能性があり、効率的な浸水把握の技術が求められています。そのような背景のもと、三菱電機は、強みの一つである画像処理技術を用いて、昼夜問わず、目視とほぼ同等の水位計測データと被災現場のカメラ画像を同時に得られる「画像式水位計測システム」を開発しました。

このようなデータと画像の「見える化」技術により、レジリエントな街づくりに貢献していきたいと考えています。

災害時の状況把握で活躍

陸域観測技術衛星2号「だいち2号」

三菱電機は、宇宙航空研究開発機構（JAXA）が運用する陸域観測技術衛星2号「だいち2号」の開発を担いました。地図作成・地域観測・資源探査など幅広いミッションを持ちますが、中でも大きな役割が、災害時の状況把握や防災の分野です。大地震などの災害が発生した場合、早期状況把握、発生後の被害状況、復旧・対策の状況把握を行います。また、火山活動の監視、冬期のオホーツク海における海水の監視などにおいても活躍。今後も重要なインフラとして人々の生活を支えていきます。

人権の尊重と多様な人材の活躍

三菱電機グループは、事業を行う各国・地域において、広く人や社会とのかかわりを持っていることを認識し、すべての人々の人権を尊重します。また、従業員のダイバーシティや労働安全衛生の確保につとめると共に、多様な人材が活躍できるよう「働き方改革」を進めています。

マネジメントメッセージ



三菱電機株式会社
人事部長

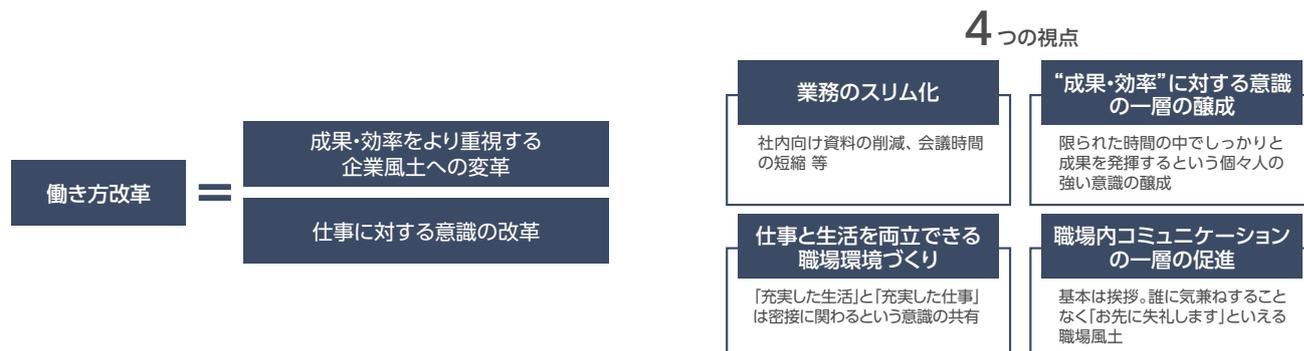
原田 真治

■働き方改革の推進

三菱電機グループは、2016年4月から「働き方改革」を経営施策として掲げ、「成果・効率をより重視する企業風土への変革」と「仕事に対する意識の改革」を通じて、誰もが仕事と生活を両立できる職場環境づくりに取り組んでいます。

具体的には、全社をあげて総労働時間の削減と適切な労働時間管理に取り組むとともに、「業務のスリム化」、「成果・効率に対する意識の一層の醸成」、「仕事と生活を両立できる職場環境づくり」、「職場内コミュニケーションの一層の促進」の4つの視点に基づき、各事業所で具体的な活動を推進しています。

特に、職場で生産性高く仕事を進めていく上で、円滑なコミュニケーションは必要不可欠です。コミュニケーションは一方通行では成立しません。上司・部下、先輩・後輩、それぞれが相手の立場を考慮して、職場として堅固な信頼関係を築いていくことが重要です。



人権の尊重

2001年に策定した「企業倫理・遵法宣言」の「人権の尊重」の項目において「常に人権を尊重した行動をとり、国籍、人種、宗教、性別等いかなる差別も行いません。」と宣言しました。そして、「三菱電機グループ 倫理・遵法行動規範」の人権の尊重に関する行動規範に則った取組を進めています。

具体的には、新入社員や新任の管理職に対して、人権に関する研修を継続的に実施し、差別やハラスメントのない健全な職場環境の確保や互いに多様性を認め合える組織風土づくりを目指しています。

2016年度は、英国子会社において、強制労働、人身取引等「現代の奴隷」の根絶を目的として制定された英国現代奴隷法へ対応しました。今後も情報開示と取組の強化を継続していきます。

また、サプライチェーンマネジメントの一環として、事業を行う各国・地域において、基本的人権の尊重をお取引先へ依頼しています。調査票により取組状況を評価し、評価の低い項目があるお取引先とはコミュニケーションを図り、改善指導を行っています。



人権の尊重

http://www.MitsubishiElectric.co.jp/corporate/csr/social/human_rights/index.html

働きやすい職場環境の整備

http://www.MitsubishiElectric.co.jp/corporate/csr/social/labour_environment/index.html

ダイバーシティの推進

http://www.MitsubishiElectric.co.jp/corporate/csr/social/labour_diversity/index.html

サプライチェーンマネジメント

<http://www.MitsubishiElectric.co.jp/corporate/csr/social/supplychain/index.html>

■ 「労働時間適正化委員会」の発足

三菱電機は、全社をあげて総労働時間の削減と適切な労働時間管理に取り組むために、社長直轄の「労働時間適正化委員会」を発足しました。

総労働時間の削減加速とさらなる適切な労働時間管理を両輪として推進することで、従業員一人ひとりの心身の健康に配慮した健全な職場環境をあらためて構築するとともに、労働基準法や労働安全衛生法などの関係法令に違反することのない体制を確立します。



労働時間適正化委員会

■ 各事業所での社長フォーラムの開催

事業所での働き方改革推進を一層加速させるため、2017年2月から、「働き方改革・社長フォーラム」を各エリアで順次開催しています。社長自らが事業所へ訪問し、本活動に対する経営トップの考えや会社としての目指す方向性を示すだけでなく、従業員の率直な意見や会社への要望を聞く、双方向のコミュニケーションの場となっています。



従業員と社長の対話



ダイバーシティ

三菱電機グループを取り巻く環境の変化がますます激しくなる中で、性別や年齢等にかかわらず従業員が最大限に能力を発揮し、活躍することは事業の発展にとって非常に重要です。

女性活躍については、採用、研修、配置、制度など多角的な視点から各種取組を推進しています。ライフイベントとの調和を図りながら前向きにキャリア形成するための気づきの機会として、若手女性社員向けのキャリアフォーラムを開催しています。さらに、新任管理職研修にて女性活躍推進に関するカリキュラムを必須化し、意識啓発やマネジメント力の強化に取り組んでいます。女性活躍推進法に基づく行動計画においても「2020年度までに技術系新卒採用に占める女性比率20%以上」とすることを目標として掲げ、理系女子学生を中心とした採用活動に積極的に取り組んでいます。

また、特例子会社「メルコテンダーメイツ株式会社」でのチャレ

ンジド社員（障がいをかかえる社員）による事業の拡大など、様々な面で多様な人材が活躍できる環境を整えています。

三菱電機グループの海外従業員はグループ全体の38%を占めます。日本の製作所における研修、海外幹部候補者の研修、海外関係会社幹部への幅広い登用等により、世界中の人材が活躍できるグローバル企業を目指しています。



チャレンジ社員の活躍



海外幹部候補者の研修

コーポレート・ガバナンス、コンプライアンスの継続的強化

三菱電機グループは、経営の機動性、透明性の一層の向上を図るとともに、経営の監督機能を強化し、持続的成長を目指しています。顧客、株主を始めとするステークホルダーの皆様の期待により的確に応える体制を構築し、更なる企業価値の向上を図ることを基本方針としています。

加えて、倫理・遵法の徹底はもとより、「企業倫理」の観点も含めたより広義の「コンプライアンス」は、会社が存続するための基本であると認識しています。独占禁止法や汚職防止に関する取組、サプライチェーンマネジメントについて、重要取組項目として強化を図っていきます。

コーポレート・ガバナンス

マネジメントメッセージ



三菱電機株式会社
専務執行役

大隈 信幸

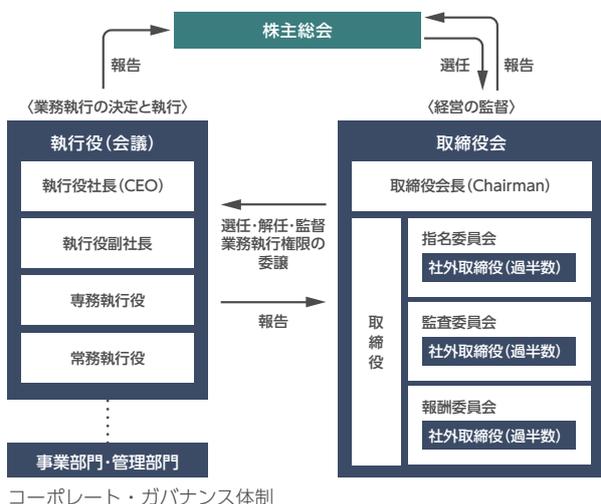
近年、我が国のコーポレート・ガバナンスのあり方には大きな注目が集まっており、企業にとってコーポレート・ガバナンスの実効性の向上や継続的な強化は最重要課題の一つと言えます。

三菱電機は、「経営の監督と執行の分離」という基本理念を持つ指名委員会等設置会社であり、これに基づき、経営監督機能の長である取締役会長と、最高経営責任者である執行役社長を分離し、両者を指名・報酬委員会のメンバーとはしていません。このように、経営の監督と執行を明確に分離することにより、三菱電機はコーポレート・ガバナンスをより実効性のあるものとしています。

また、三菱電機ではCSRの重要課題にもあるとおり、コーポレート・ガバナンスの継続的な強化を行っています。

2016年度は、取締役会の経営監督機能の一層の向上のため、2015年度の実績レビュー後に社外取締役への情報提供と意見交換の場を設けて、より取締役への適時適切な情報提供に努めました。また、取締役会の更なる実効性向上を図るため毎年実施することとしている取締役会レビューを、2016年度も実施いたしました。レビューの結果、取締役会の運営及び三菱電機における取締役会から執行役への権限委譲のあり方は、基本的に妥当であるとの評価を受けましたが、更なる経営の監督機能の向上のため、取締役への経営情報提供の一層の充実を図っていきます。

三菱電機は、今後も「健全なチェック機能が働く企業経営」を目指し、より一層充実したコーポレート・ガバナンス体制を構築していきます。



取締役会



コーポレート・ガバナンス
<http://www.MitsubishiElectric.co.jp/corporate/csr/governance/governance/index.html>
 コンプライアンス
<http://www.MitsubishiElectric.co.jp/corporate/csr/governance/compliance/index.html>
 サプライチェーンマネジメント
<http://www.MitsubishiElectric.co.jp/corporate/csr/social/supplychain/index.html>

社外取締役メッセージ



三菱電機株式会社
社外取締役

中 三十二

三菱電機は多種多様な事業をグローバルに展開しており、これらの事業が適切に執行されているかを取締役会として監督するには、取締役に対して適時適切なタイミングで経営情報が提供されることが非常に重要です。

三菱電機においては、取締役会では経営の監督を行う上で相当に詳しく、十分な情報の提供がなされており、また社外取締役を中心とした情報共有の場も設けられ、更なる経営情報の提供があるため、取締役が受け取る情報は非常に充実していると考えております。さらに、これら以外でも事業所視察などの機会も多く、取締役として現場の声を聞き、地に足がついた経営情報を得ることに努めております。

加えて、取締役会の実効性を評価し、その向上を図るため、全取締役を対象とした取締役会レビューが毎年実施されており、取締役会の運営面や情報提供のあり方などに自由に意見が言える場が提供されております。

これらの機会は、取締役として三菱電機の経営状況を理解し、議論に参画する上で非常に有用と感じております。今後とも、取締役会の経営監督機能のより一層の強化のため、経営情報の適時適切な提供を更に充実させてほしいと考えております。

コンプライアンスの継続的強化

三菱電機グループでは、2001年に制定した「企業倫理・遵法宣言」をコンプライアンスの基本方針として、「倫理・遵法の徹底」は会社が存続するための基本であると認識しています。このような認識の下、「法令遵守」のみに留まらず「企業倫理」の観点も含めたより広義の「コンプライアンス」を推進すべく、コンプライアンス体制の充実を図るとともに、各種施策の整備や従業員教育にも注力しています。

特に、独占禁止法違反防止と汚職防止（贈収賄防止）を重点課題とし、三菱電機グループ全体で社内規則を整備し、教育・啓発活動を強化するなど予防施策に取り組んでいます。独占禁止法違反防止については、過去からの反省を踏まえ、同業他社と接触する際のルールを整備し、階層別研修や事業本部別の研修を継続的に実施するなど再発防止・風化防止に取り組んでいます。贈収賄防止についても、2017年4月に「三菱電機グループ 贈収賄防止ポリシー」を制定し社内外に周知するとともに、公務員等への対応について定めた社内規則を整備し、贈収賄防止に特化したeラーニングや実務に即したケーススタディを交えた対面研修を実施するなど施策の強化を図っています。

さらに、主要な法令や三菱電機グループのコンプライアンスに対する考え方をまとめた「三菱電機グループ 倫理・遵法行動規範」を全従業員に配布するとともに、当該規範に関する継続的な教育を行っています。

サプライチェーンマネジメントの一環として、調達業務に携わる社員に調達関連法規に関する様々な教育を行っています。国内では「資材調達関連法規講座」を開催し、独占禁止法、下請代金支払遅延等防止法、建設業法、内部牽制などの教育をしており、海外では贈収賄や横領など、公正な取引に反する行動を行わせないよう、「調達関連コンプライアンス教育」などを行っています。また、サプライチェーンにおけるCSRへの取組を更に進めていくため、調達部門社員向けCSR教育も実施しています。



コンプライアンス講習会



タイ地区における調達関連
コンプライアンス教育

CSRの重要課題と取組項目

三菱電機グループは、社会動向や事業環境に鑑み、GRIガイドライン第4版(G4ガイドライン)でも要求されているCSRの重要課題(マテリアリティ)と取組項目を2015年度に特定しました。2016年度はその実績を明らかにし、また、各目標/KPIの見直しも行いました(詳細はウェブサイトをご覧ください)。

三菱電機グループのCSRの重要課題

三菱電機グループは、「企業理念」及び「7つの行動指針」をCSRの基本方針とし、豊かな社会の実現に貢献する「グローバル環境先進企業」を目指し、

4つの重要課題	取組項目
 <p>持続可能な社会の実現</p>	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 「環境ビジョン2021」の実現*1 <ul style="list-style-type: none"> • 低炭素社会の実現への貢献 • 循環型社会の形成への貢献 • 自然共生社会の実現への貢献 • 環境経営基盤の強化 ▶ 製品・サービスを通じた貢献
 <p>安心・安全・ 快適性の提供</p>	<ul style="list-style-type: none"> ▶ お客様の安全を第一とした製品作り ▶ お客様の声を反映した製品・サービスの提供 ▶ お客様を最優先とする品質マインドの教育の継続的实施 ▶ 製品・サービスを通じた貢献
 <p>人権の尊重と 多様な人材の活躍</p>	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 差別的取扱の禁止と人格の尊重 ▶ 仕事と生活を両立して生き活きと働ける職場環境の実現 ▶ 多様な人材の採用・活用によるダイバーシティの推進 ▶ 労働安全衛生と心身の健康の確保
 <p>コーポレート・ガバナンス、 コンプライアンスの 継続的強化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ▶ ステークホルダーとの積極的な対話 ▶ 健全なチェック機能が働く企業経営 ▶ コンプライアンス研修の継続的实施 ▶ 公正な競争(独占禁止法違反防止)の推進 ▶ 汚職防止(贈収賄防止)の徹底 ▶ CSR調達(環境、品質、人権、コンプライアンス等)の推進

※1: 第8次環境計画(2015年~2017年度)の目標

今後も社内外の声を取り入れながら、PDCA (Plan-Do-Check-Action) サイクルによる継続的な改善活動により取組を強化し、情報開示の拡充を図ります。

 CSRの重要課題に関するマネジメント状況
<http://www.MitsubishiElectric.co.jp/corporate/csr/management/materiality/progress/index.html>

4つの重要課題に対する取組をサプライチェーンと共に推進します。

2017年度の目標/取組指標 (KPI) []内は定量目標	範囲
<ul style="list-style-type: none"> 生産時のCO₂排出量削減の推進 【2017年度に137万トン以下】 	三菱電機グループ全体(国内、海外)
<ul style="list-style-type: none"> 製品使用時のCO₂排出量削減の推進 【2017年度に2000年度比で35%削減】 	三菱電機グループ全体(国内、海外)
<ul style="list-style-type: none"> 資源投入量の削減の推進 【2017年度に2000年度比で40%削減】 	三菱電機グループ全体(国内、海外)
<ul style="list-style-type: none"> 廃棄物最終処分率の改善の推進 【2017年度に三菱電機と国内関係会社で0.1%未満を維持、海外関係会社で0.5%未満に半減】 	三菱電機グループ全体(国内、海外)
<ul style="list-style-type: none"> 家電製品のプラスチックリサイクル率70%以上の維持 【70%維持】 	家電製品(国内)
<ul style="list-style-type: none"> 野外教室及び里山保全活動の参加者数の増加 【2017年度に累計30,000人以上】 	三菱電機グループ全体(国内、海外)
<ul style="list-style-type: none"> 地域固有種保護活動を国内事業所へ展開 【2017年度に累計24事業所で活動】 	三菱電機
<ul style="list-style-type: none"> 環境eラーニングの受講率100%維持 【100%維持】 	三菱電機
<ul style="list-style-type: none"> 「気候変動の緩和適応」、「エネルギー利用の最適化」、「持続可能な生産消費」に貢献する製品サービスの提供 	三菱電機グループ全体(国内、海外)
<ul style="list-style-type: none"> 製品使用時のCO₂削減貢献量の維持 【2017年度に9,200万トン】^{*1} 	三菱電機グループ全体(国内、海外)
<ul style="list-style-type: none"> リスクアセスメントによる安全性の追求 【家電製品のリスクアセスメント実施100%維持】 	三菱電機グループ全体(国内、海外)
<ul style="list-style-type: none"> お客様の声を品質に作り込むキーパーソンの育成 【2020年度に全部門の対象者100%育成】 	三菱電機グループ(国内)
<ul style="list-style-type: none"> 過去重要不具合の真因究明と対策の全社展開 	三菱電機グループ全体(国内、海外)
<ul style="list-style-type: none"> 品質eラーニングの受講率100%維持 【100%維持】 	三菱電機グループ全体(国内、海外)
<ul style="list-style-type: none"> 「安心安全なまちづくり」、「健康と福祉の向上」に貢献する製品サービスの提供 	三菱電機グループ全体(国内、海外)
<ul style="list-style-type: none"> 人権に関する国際的な規範への対応と従業員への徹底 	三菱電機グループ全体(国内、海外)
<ul style="list-style-type: none"> 新入社員研修、新任管理職研修での人権啓発とハラスメント予防に関する講義実施 	三菱電機
<ul style="list-style-type: none"> 「働き方改革」を通じた業務のスリム化推進と“成果・効率”意識の醸成 	三菱電機グループ全体(国内、海外)
<ul style="list-style-type: none"> 地域・業態に応じた、多様な人材の採用・活用によるダイバーシティの推進 	三菱電機グループ全体(国内、海外)
<ul style="list-style-type: none"> 法定雇用率を上回る障がい者雇用の推進 【2.0%以上】 	三菱電機グループ全体(国内)
<ul style="list-style-type: none"> 技術系新卒採用に占める女性比率の向上 【将来目標20%】 	三菱電機
<ul style="list-style-type: none"> 海外OJT研修、海外語学研修等の計画的派遣 【180名以上/年】 	三菱電機
<ul style="list-style-type: none"> 安全管理活動や健康づくり活動の推進 	三菱電機グループ全体(国内、海外)
<ul style="list-style-type: none"> 安全衛生教育の推進と、同業種平均を下回る労働災害度数率[*]の維持 【0.51以下】 <small>*100万時間当たりの休業災害件数</small> 	三菱電機
<ul style="list-style-type: none"> 三菱電機グループヘルスプラン21 (MHP21) 活動ステージⅢによる生活習慣改善と健康経営企業の実現推進 【適正体重維持者の割合73.0%以上、運動習慣者の割合39.0%以上、喫煙者割合20.0%以下、1日3回以上の歯の手入れ者の割合25.0%以上、睡眠による休養が取れている者の割合85%以上】 	三菱電機グループ(国内)
<ul style="list-style-type: none"> CSRをテーマにしたステークホルダーとの対話の年1回以上の実施 【1回以上/年】 	三菱電機グループ全体(国内、海外)
<ul style="list-style-type: none"> 株主総会、経営戦略説明会、事業戦略説明会、国内外IR活動を通じたステークホルダーとの対話の実施 	三菱電機グループ全体(国内、海外)
<ul style="list-style-type: none"> 取締役への適時適切な情報提供と、取締役会レビュー及びその分析・評価の実施 	三菱電機
<ul style="list-style-type: none"> 取締役及び執行役に対する就任時の研修、及びその他のコンプライアンス教育や研修の適時適切な実施 	三菱電機
<ul style="list-style-type: none"> 三菱電機グループの業務の適正を確保するために必要な社内規定・体制等を定め、その運用状況について内部監査を行い、監査担当執行役を通じ、監査結果を定期的に監査委員会へ報告 	三菱電機グループ全体(国内、海外)
<ul style="list-style-type: none"> コンプライアンスeラーニングの受講率100%維持 【100%維持】 	三菱電機
<ul style="list-style-type: none"> 独占禁止法・競争法遵守施策の充実 	三菱電機グループ全体(国内、海外)
<ul style="list-style-type: none"> 贈賄防止施策の充実 	三菱電機グループ全体(国内、海外)
<ul style="list-style-type: none"> CSR調達の推進と、リスクのあるサプライチェーンへの改善指導の継続実施 【指導対象となったサプライヤーへの指導実績数把握】 	三菱電機、三菱電機グループ(国内、海外関係会社の一部)のサプライチェーン

社会貢献活動

理念

三菱電機グループは、社会の要請と信頼に応える良き企業市民として、持てる資源を有効に活用し、従業員とともに、豊かな社会づくりに貢献する。

4つの重点分野

地域に根ざした活動

社会福祉

地球環境保全

地域に根ざした活動



イタリア

障がいを持つ方々の夢を紡ぐお手伝い

スペシャルオリンピックスは、知的障がいを持つ方々に、スポーツレーニングのプログラムを提供し、成果発表の場としての競技会を開催している国際的なスポーツ組織です。Mitsubishi Electric Europe, B.V. イタリア支店は、2010年からイタリアのスペシャルオリンピックスのスポンサーであり、各種スポーツ大会を社員ボランティアとともに積極的に支援しています。



日本

社員の善意の寄付を倍に

「三菱電機SOCIO-ROOTS(ソシオルーツ)基金」は、社員からの寄付に対して同額を会社が上乘せし、社会福祉施設や団体に拠出するマッチングギフト制度です。この取組には毎年多くの社員が参加しており、2016年度は、全国の社会福祉施設、東日本大震災の被災地の子どもたち、そして「平成28年熊本地震」の被災者への支援として総額9,957万7,712円を寄付しました。過去25年間の累計寄付金額は12億円を超過、支援先は1,910カ所にのぼります。

一人ひとりの思いやりが大きなサポートとなり、社会で多くの笑顔の花を咲かせられるよう、地域に根ざした活動を着実に続けていきます。



東日本大震災の被災地で、子どもたちが再び海や自然と暮らして行くための活動を行う団体への贈呈式



日本

地域の人とともに里山を守る

三菱電機の社員とその家族が、事業所周辺の公園や森林、河川など「身近な自然」を維持・回復する「里山保全プロジェクト」を2007年から継続的に行っています。

一例として、香川県丸亀市に位置する受配電システム製作所は、高齢化・過疎化が進む瀬戸内海の離島での活動を2015年に開始。観光資源である登山道整備や、海岸保全活動、花の散歩道整備等を行い、毎回、地元自治会や丸亀市職員の方たちと気持ちのよい汗を流しています。活動後には、子どもたちと獲った魚を調理したり、地元の方お手製のそうめん流しを行ったりと、地域の方々と交流の一時を過ごしています。今後も現地のニーズに沿った活動を続けるとともに、社員と家族の環境マインドを育みたいと考えています。



島を守る老夫婦の方が育てるひまわりが訪島者を歓迎してくれます

VOICE 里山保全活動連携先



広島校区連合自治会長
平井 明氏

三菱電機受配電システム製作所に近い広島・小手島・手島では、高齢化が進み、自然環境保全に手が回らない現状がありました。そんな中、三菱電機から何かお手伝いがないかとお話を頂いたことから、すぐにお願いをしました。弘法大師ゆかりの心経山や王頭山登山道の整備、手島の浜辺の清掃、花菖蒲の植替作業等、社員の皆様のお力を頂き、とても助かっています。自治会員も力を合わせて活動することで交流が深まり、今日では広島校区連合自治会の年中行事として来島を心待ちにしております。活動の継続をお願いするとともに、島の魅力をもっと知っていただきたいと思っています。

方針

社会福祉、地球環境保全の分野において、社会のニーズを反映し、地域に根ざした活動を行う。科学技術、文化芸術・スポーツへの支援活動を通じ、次世代の人材を育む活動を行う。

WEB 社会貢献活動
<http://www.MitsubishiElectric.co.jp/corporate/philanthropy/index.html>

次世代の人材を育む活動

科学技術

文化芸術・スポーツ

次世代の人材を育む活動



スペイン

若手音楽家の登竜門「カタルーニャ音楽祭」を支援

Mitsubishi Electric Europe, B.V. スペイン支店は、スペイン・バルセロナの世界遺産「カタルーニャ音楽堂」で毎年行われる、若手音楽家の登竜門「カタルーニャ音楽祭」のスポンサーとして、将来有望な若手音楽家を2000年から支援しています。この継続的な支援が認められ、日本と諸外国との友好親善関係の増進に貢献する中で特に功績のあった個人・団体に与えられる「平成29年度外務大臣表彰」を受賞しました。



日本

モノづくりの楽しさを伝える

未来のエンジニアの卵を育む活動として、2009年から理科全般の基本原則を伝える「小・中・高校生向け理科教育推進活動」を、また2010年からは三菱電機製品にかかわる基本原則を紹介する「科学教室」の取組をそれぞれ進めています。

一例として、神奈川県内の5事業所*では太陽光発電をテーマとした科学教室を2016年度に合同開催。社員から公募した講師が、太陽電池の仕組みについて実験を交えながら子どもたちに分かりやすく説明し、ソーラーカーを作りました。

* 神奈川支社、情報技術総合研究所地区、鎌倉製作所、相模事務所、インフォメーションシステム統括事業部

VOICE 科学教室の講師



三菱電機株式会社
鎌倉製作所 宇宙システム部
技術第二課 通信システムチーム

小松 聖児

2016年度に講師を務めた科学教室では、まず太陽電池の仕組みを実験と講義で子どもたちに学んでもらい、その後ソーラーカーの工作を行いました。講師として科学教室に参加する中で、周りの音が聞こえなくなるくらい夢中になっている子どもたちを目の当たりにし、私自身が幼い頃に科学教室に参加して感じたモノづくりの楽しさを思い出しました。

私にとってその体験がエンジニアとしての原点となっています。将来、科学教室での体験が参加してくれた子どもたちにとって有意義なものとなることを期待すると同時に、未来のモノづくりを支えてくれる存在となってくれることを願っています。



台湾

絶滅危惧種の飼育支援と次世代の芸術人材育成

Mitsubishi Electric Taiwan Co., Ltd. (台湾)は、2012年3月から、絶滅危惧種である台湾鹿の飼育協賛を継続しています。2016年度には、その取組が認められ、台北市政府から表彰されるといった嬉しい知らせもありました。

受賞と同じ年には、国立台湾師大附中と協力し、次世代を担う芸術人材の育成支援を開始したことから、同年8月、台北市立動物園でイベントを開催し、高校生に台湾鹿の生態に関して理解を深めてもらうとともに、台湾鹿を題材として絵を描く機会も提供することができました。



海外財団の活動紹介



米国三菱電機財団



1991年に設立した米国三菱電機財団(Mitsubishi Electric America Foundation)は、障がいを持つ若者たちが生き生きと活躍できる社会を目指して活動を推進しており、その助成額は累計で約1,500万ドルに上ります。設立当初は、障がい者が教育を受けられるよう

手助けするテクノロジーの開発・展開に係るプロジェクトを中心に助成してきましたが、2002年には、障がいの有無にかかわらず共生できる社会づくりに注力するようになりました。それでもなお、約70%が社会に進出する健常者と比べると、若年障がい者の就業率は約21%と低迷していたことから、2012年にM>PWR possible(エンパワーポッシブル)イニシアティブを立ち上げ、障がいを持つ若者の就業率向上を目的に特色あるプロジェクトへの助成を行っています。

この他、米国三菱電機グループの社員ボランティアがaccessTEAM*として財団活動に参加しています。2016年のボランティア活動は7,700時間を越え、財団が社会に与える影響をより大きなものにしていきます。

* 財団と連携し活動する社員ボランティアの総称。S.T.E.A.M(科学、技術、工学、アート・デザイン、数学)の分野での就労アクセスを応援する意味も込めている。

最近のトピックス

M>PWR possibleイニシアティブでは、2020年までに「障がいを持つ若者や退役軍人の就業率を高めること」を掲げ、全国規模及び地域で活動する団体への助成やこれら団体とのネットワークづくりを通じて、障がいを持つ若者たちの自主性や自信、就業能力を高めることを目指し活動しています。

助成事例として、インターンシップを経て就業へとつなげるProject SEARCHへの支援があります。このプロジェクトに参加した



た認知障がいのある高校生の就業率は、全米の障がい者の雇用率平均21%と比較して、70%と驚異的な数字を達成しています。当初は1拠点、年に12人の若者が対象でしたが、当財団の支援により今では世界400カ所以上で、年間約1,800人の就職を後押しできるまでに成長しました。

VOICE 米国財団スタッフ



米国三菱電機財団
シニアディレクター
ケビン ウェブ

2005年から12年間、米国三菱電機財団の活動に携り、その歩みを見つめてきました。当財団のアプローチは、全米で実施可能な特色あるプロジェクトを助成していること、そして数多くの社員がボランティアとして活動していることが強みだと思っています。効果的なプロジェクトを全米展開することで既存の枠組みに変化を起こすことに最もやりがいを感じ、実際に若者が就職先を見つけていくことが私の大きな喜びとなっています。

2020年の目標達成に向けて、今後もそのようなプロジェクトを支援し、社員ボランティアと連携していくことは、障がいを持つ若者が生き生きと社会で活躍するための変化を生む鍵だと考えています。



タイ国三菱電機財団



最近のトピックス

グループ合同での取組として従来実施していた植樹活動に加え、2016年には小学生に対する科学教室、寺院での5S*活動を通じた地域への貢献活動、エイズ患者を抱える寺院への寄付の3つの活動を、新たに実施しました。各回とも100~500名の社員や地域の方々に参加する大規模な取組となり、社会貢献活動を通じて多くの方々との喜びを分かち合うことができました。

* 整理、整頓、清掃、清潔、躰



1991年に設立したタイ国三菱電機財団(Mitsubishi Electric Thai Foundation)は、大学生への奨学金支援や、小学校への昼食支援、タイの三菱電機グループ合同で行うボランティア活動を行っています。

さらに、グループ全体でより効果的な活動を実施するため2015年に新しく設置された「タイ社会貢献委員会」と連携しながら、新しいボランティア活動も進めています。

VOICE タイ財団スタッフ

当財団は、1991年の設立以来、タイの三菱電機グループ各社からの支援を受けながら、大学生への奨学金やボランティア活動等を通じて、社会貢献に取り組んでいます。また、2015年に設置されたタイの各拠点メンバーから成るタイ社会貢献委員会との新企画にも力を入れています。2016年に新たに始めた科学教室では、小学生が楽しみながら科学体験をできる場を提供しました。こうした活動が未来社会を支える次世代の育成につながることを願っています。活動を通じて、私の心の中に豊かさを育み、人生に大きな価値をもたらしていると感謝しています。これからもタイグループ拠点の社員と共に、タイ社会に価値ある取組を展開していきます。

タイ国三菱電機財団 事務局/
三菱電機アジア(タイ) 総務 マネージャー
アモンシー ミンクワンルンルアン



三菱電機グループ CSRの取組 ウェブサイト/ハイライト掲載情報一覧

◎= ウェブサイト、ハイライトともに掲載 ●= ウェブサイトのみ掲載 ○= ハイライトにも一部掲載

会社概要及び業績	◎
グローバルな事業展開	ハイライトのみ
社長メッセージ	◎
三菱電機のCSR	◎
目指すべき企業の姿	◎
三菱電機の事業分野と社会課題への対応	◎
CSRマネジメント	○
マネジメント	◎
社内浸透策	○
イニシアティブ	●
三菱電機グループとSDGs	●
CSRの重要課題	○
特定・見直しプロセス	●
CSRの重要課題に関するマネジメント状況	○
持続可能な社会の実現	◎
安心・安全・快適性の提供	◎
人権の尊重と多様な人材の活躍	◎
コーポレート・ガバナンス、コンプライアンスの継続的強化	◎
ステークホルダーとのコミュニケーション	○
コミュニケーション状況	○
読者アンケート結果	○
有識者ヒアリングの実施	●
有識者とのダイアログ開催	○
ガバナンス	○
コーポレート・ガバナンス	○
コンプライアンス	○
リスクマネジメント	●
知的財産権の保護	●
株主・投資家とともに	●
環境	●
社会	○
お客様への対応	●
人権	○
労働慣行	○
サプライチェーンマネジメント	○
社会貢献活動	○
編集方針	◎
ガイドライン対照表	●
ISO26000対照表	●
GRIガイドライン対照表 第4版	●
環境報告ガイドライン対照表 (2012年版)	●
ESG調査用インデックス	●

三菱電機グループのCSRに関連するより詳しい情報はウェブサイトにて掲載しています。

 **CSRの取組**
<http://www.MitsubishiElectric.co.jp/corporate/csr/index.html>

環境への取組
<http://www.MitsubishiElectric.co.jp/corporate/environment/index.html>

三菱電機について
<http://www.MitsubishiElectric.co.jp/corporate/gaiyo/index.html>



家庭から宇宙まで、エコチェンジ。

「eco changes」は、家庭・オフィス・工場から社会インフラ、そして宇宙にいたるまで、幅広い事業を通じて、持続可能な社会の実現に貢献していく、三菱電機グループの環境ステートメントです。

一人ひとりが、
エコチェンジ。

ものづくりを、
エコチェンジ。ビジネスを、
エコチェンジ。

お問い合わせ先：〒100-8310 東京都千代田区丸の内2-7-3〈東京ビル〉 総務部 CSR推進センター TEL (03) 3218-2075

